

第2回 ふるさと高原山を愛する集い 実施報告書



開催日：平成26年10月26日(日)

開催場所：尚仁沢はーとらんど

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

第2回ふるさと高原山を愛する集い

～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

期日：平成26年10月26日（日）

場所：尚仁沢はーとらんど

主催：ふるさと高原山を愛する集い実行委員会、塩谷町

後援：栃木県「山の日」協議会

協力：とちぎ音の会、せんろ商会



しおやの高原山 10 景
「高原 4 連峰」(久保井久夫さん撮影)

山と川と海は、人が利用するにあたって適切な保全管理があってこそ、はじめて良好な環境が得られるといわれています。“高原山”は栃木県塩谷町の基本構想にシンボルといたわれているように、住民にとって心の支えであるとともに、水やおいしい空気、大地の恵みなどを供給しています。私たちには“高原山”の素晴らしい自然を次世代に継承していく責務があります。

今年名誉県民に表彰された船村徹先生は“山の日”の制定にご尽力され、2016年から8月11日が国民の祝日“山の日”として施行されることも決定しました。“山の日”の意義は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」とされています。本日ご参加いただいた皆様方とともに、ふるさと“高原山”への思いを共有し、“山の日”の制定を祝しましょう！

プログラム

11:45～ 高原山閉山祭
12:00～ 開会
あいさつ
12:20～ オープニング

和気達郎宮司（高原山神社）

見形和久会長、来賓代表

「国民の祝日「山の日」に期待すること」

船村徹先生（作曲家・名誉県民・塩谷町名誉町民）

特別出演

歌手 えひめ憲一氏 「故郷がいちばん」熱唱

内弟子 大門 弾氏 「故郷の山が見える」熱唱

13:00～ お楽しみステージ

「山の日」をしてっけ？」 嶋均三氏（方言作家）

（ギョウソウさんからのメッセージ）

「きたかん音頭」

イシワロシアとそだんべくらぶさん

「下野不動太鼓」

下野不動太鼓保存会のみなさん

14:00～ クイズ大会

全員参加で高原山のクイズに挑戦しよう！

14:30～ 情報提供

「山の日」制定までの経緯」 成川隆顕氏（全国「山の日」協議会）

14:40～ 緑化推進

「緑豊かな郷土づくりをめざして」 マロニエメイツのみなさん

14:45 閉会

谷畑方夫副会長

※苗木の配布

塩谷町緑化推進委員会



故郷の山が見える

木下龍太郎 作詞

船村徹 作曲

丸山雅仁 編曲

一

いちど東京へ 行くと言いながら
いつも口だけで ひとり野良仕事

老けたおふくろの やせたあの肩を
さすってあげたい

峠 越えれば 俺のふるさと
山が見えてくる

二

♪ ふるさとの山に向かいて 言うことなし
ふるさとの山は ありがたきかな（石川啄木詩集）

二

けんかしたけれど 何故か気があって
どこへ行くんだと 泣いてくれたやつ

月の縁側で 馬鹿を言いながら
ふたりで呑みたい

幼なじみと共に遊んだ
山が見えてくる

三

三

村を出るときは ひとり踏切で
汽車が消えるまで 背伸びしていた娘

町へ嫁に行き 母となつたいま
しあわせだろうか

恋を失くした 遠いあの日の
山が見えてくる

三

参加者一人一人がボランティア！ 準備・片付け等ご協力をお願いします！

ふるさと高原山を愛する集い ～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会 市川 貴大

第2回ふるさと高原山を愛する集いが平成26年10月26日(日)に尚仁沢は一とらんどにて開催されました。様々な諸条件により周知不足の感が否めませんでした。天候にも恵まれ、約300名の参加者をいただき、ふるさと“高原山”への思いを共有し、“山の日”の制定を祝しました。ここでは、第1回から第2回に至るまでの経緯と第2回の集いの内容を報告いたします。

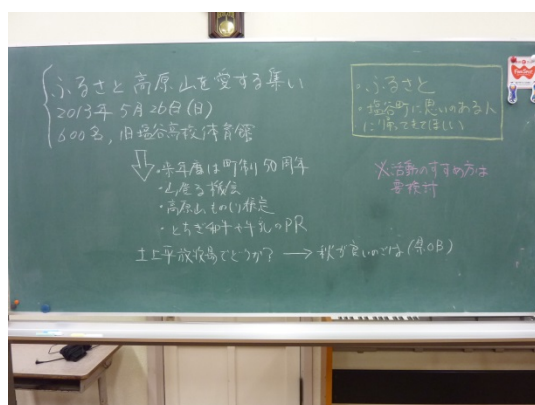
第1回ふるさと高原山を愛する集い

平成25年5月26日(日)、日々輝学園体験学習館(旧塩谷高等学校)体育館にて、船村徹先生による「ふるさとの山を語る」というテーマでの講演、見形和久会長、柿沼尚志さん、小川三夫さん、船村徹先生による「山の日に対する思い」についてのスペシャルトーク、市川貴大事務局長、成川隆顕さん、畝崎辰登さんによる「山の日」に関する情報提供、高原山へのメッセージ、しおやの高原山10景の選定・発表を行い、約650名の参加をいただきました。



ふるさと高原山を愛する集い幹事会

ふるさと高原山を愛する集いの今後について考えるため、高原山の自然を守る会、船村徹ふるさと会、花の会塩谷支部、写真サークルあそぼ、くまの木里山応援団の代表等からなる「ふるさと高原山を愛する集い幹事会」を平成25年9月16日、10月20日、11月24日に開催しました。集いを塩谷町町制50周年の記念イベントの一つに位置づけること、県営土上平放牧場での開催希望が多数占められました。一度町職員とも意見を交えようということになり、12月11日には町職員を交えての意見交換を行いました。秋での集いの開催に向けて、実行委員会を改めて立ち上げていくことになりました。



ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

平成26年2月2日に秋の集いに向けて、実行委員を追加募集すること、実行委員会に顧問を新設することになりました。4月12日には、新たに2名(那須塩原市在住の中山

信子さん、福田節子さん)を加え、第2回ふるさと高原山を愛する集いを10月26日(日)、県営土上平放牧場にて開催することにしました。5月24日には、尚仁沢は一とらんど周辺の駐車場の検討、県営土上平放牧場内での現地調査、集いで具体的な内容(バーベキューセットの内容、当日ボランティアの声かけ等)の検討を行いました。6月21日には、来場者の輸送方法、バーベキュー会場での諸手続き、ステージの内容、役割分担、PRチラシ案を検討しました。7月21日には、集いのプレスリリースを8月11日(山の日)に行うこと、当日ボランティアを一般公募すること、来場者の輸送方法の再検討、バーベキューセットの内容再確認を行いました。



集いの実施の有無の再検討

平成26年7月30日、指定廃棄物の最終処分場候補地に塩谷町が選定されてから、状況は一変しました。塩谷町内では混乱を極めていたことから、8月11日に予定していたプレスリリースを断腸の思いで中止し、8月31日に実行委員出席者全員に集いの今後について意見をいただきました。委員のみなさんから、「飲みくいはやめたほうがいい!」、「不特定多数の参加にすることで、誰でも来られる環境をつくるのが大切」、「集いを機会に自然を認識してもらいたい」、「すべてパーではいかななものか、強い力に倒された思い」という貴重なご提言をいただきました。結論として、バーベキューは次年度以降に繰り越し、バーベキュー以外のステージ企画を10月26日(日)に開催することにしました。



集いの実施場所の再検討

このあと、また新たな問題、すなわち会場の場所の問題が浮上しました。県営土上平放牧場は指定廃棄物の最終処分場候補地に近すぎるので、中立性が保てるのかという課題です。県営土上平放牧場は、通常一般者が入れず、町民はほとんど入場したことがないため、実施すると多くの方々が来場されることが予想されたためです。10月26日は各地でイベントが開催され、実行委員自体の参加も全員というわけにはいかず、また、当日ボランティアについて、町広報誌で募集を募りましたが、一人も申込者がいないなど、準備と人手不足があきらかでありましたので、会場を塩谷町が管理している尚仁沢は一とら



んどにて開催することにしました。9月14日には、尚仁沢は一とらんどで集いを行うための具体的な検討を行いました。10月26日は尚仁沢は一とらんどにて秋の収穫祭がおこなわれるため、集いの会場を親水公園とすること、来賓、出演者、報道関係には紙面にて連絡することとしました。10月13日には、尚仁沢は一とらんどの臨時駐車場と親水公園の草刈りを行い、当日の集いのイメージを共有しました。

高原山閉山祭

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の水野雅章さんが司会となり、開会宣言の後、高原山閉山祭が和気達郎宮司と和気洋誠禰宜により厳粛にとりおこなわれ、来場者全員で高原山に感謝の意を伝えました。



開会あいさつ

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の見形和久会長から、『「山の日」は高原山のために作ったのではといわれたことがあります。』、「山の日」の提唱者である船村徹先生のふるさとは塩谷町であり、高原山から「山の日」の情報発信をしていきたい』、『塩谷町は高原山と尚仁沢湧水に守られ育てられてきました。「山の日」は2016年8月11日の祝日となり、また、8月1日は水循環基本法にて「水の日」と定められました。塩谷町では、高原山・尚仁沢湧水保全条例を制定し、高原山と尚仁沢湧水をしっかり守って次世代に引き継いでいきたい』とあいさつしました。つづいて、衆議院議員の福田昭夫先生と柏倉祐司先生、参議院議員の渡辺美知太郎先生、栃木県議会副議長の花塚隆志先生に来賓あいさつをいただくとともに、衆議院議員の西川公也先生、参議院議員の上野通子先生、高橋克法先生から祝辞を賜りました。特に花塚隆志先生は『高原山は本当に素晴らしい山で、父であり母でもあると述べられ、「山の日」は船村徹先生を始め、福田富一知事が尽力されたことから、日本の山の中心が高原山であり、これからも大切にしていきたい』と述べられました。また、来賓・出演者の紹介がありました。





オープニング

作曲家、文化功労者、名誉県民である船村徹先生は「高原山は子供の頃遊んでいたところで、夢の中で出てくるのが「高原山」であり、子々孫々に栃木の山、川を大事に大事に継承して行ってほしい」と述べられ、歌手のえひめ憲一さんが「故郷がいちばん」（作詞 さくらちさと、作曲 船村徹）を、内弟子の大門弾さんが「故郷の山が見える」（作詞 木下龍太郎、作曲 船村徹）、そして、えひめ憲一さんと大門弾さんのデュエットで「祭り唄」（作詞 木下龍太郎、作曲 船村徹）を熱唱されました。



お楽しみステージ

まず司会の水野雅章さんから、ギョウゾウさんからのメッセージを読み上げました。

方言作家の嶋均三さんによる「「山の日」をやってっけ？」というテーマにて、自然、山、川は最高だよねとし、自然の先生であったおじいさん、おばあさんの思い出をユーモアたっぷりにトークいただきました。

イシヲロシアとそだんべくらぶさんからは、今回特別に創作された「山のうた」から、「青い空」、「上を向いて歩こう」、「きたかん音頭」を歌っていただきました。特に「きたかん音頭」では見形和久会長も応援して、塩谷町の自然を作詞におりまぜて、「だがね（群馬県）、そだんべ（栃木県）、そうだっぺ（茨城県）」を会場全員で歌いました。

下野不動太鼓保存会からは、「初っ切り」、「男体風」、「上弦の月」、「荒磯」、「八重」、「電光石火」



というテーマで「下野不動太鼓」の迫力ある演奏をいただきました。下野不動太鼓保存会の皆さんは、国民文化祭にも出演されるなど国内外で活躍されておられます。



全員参加の高原山クイズ大会

ふるさと高原山を愛する集い実行委員の手塚功さんのリードで、全員参加の高原山クイズ大会を開催しました。かなり正解者が多かったので9問まで行い、回答された約20人の方に見形和久会長より、はーとらんど野菜セットを贈呈しました。

(問1) 高原山は、いくつもの山々の総称である。

「○」 釈迦ヶ岳、中岳、西平岳、鶏頂山、
剣が峰

(問2) 高原山の最高峰は釈迦ヶ岳である。

「○」

(問3) 釈迦ヶ岳の標高は、約1500mである。

「×」 1800m (1795m)

(問4) 高原山は「活火山」である。

「○」 他に日光白根山、那須岳

(問5) 高原山の中腹で取れる刃物のように切れる鋭い石は「黒曜石」である。

「○」

(問6) 釈迦ヶ岳の山頂は、塩谷町、日光市、那須塩原市の3つの町の境にある。

「×」 塩谷町と日光市

(問7) 名水百選の尚仁沢の上流の川は黒沢である。

「×」 権現沢

(問8) 和歌「水を越え 岩に至ると 胸をどる 高原山を 得しようにわれ」と詠んだ歌人は「与謝野晶子」である。

「○」

(問9) 「与謝野晶子」が生まれたのは、大正時代である。

「×」 明治時代

(問10) 地元の伝説「釈迦ヶ岳の神のしくじり」で、山の神が夜な夜な通った美人が住んでいた塩谷町の地名は、「玉生」である。

「×」 田所



情報提供「山の日」制定までの経緯」

全国「山の日」協議会の成川隆顕顧問より、『船村徹先生の国民の祝日としての「山の日」をつくらうという第一声に呼応して立ち上がり、国会議員をはじめ、栃木県や群馬県などと力を合わせてきました。今後とも今日の集いのようなイベントを全国でやっていってほしいということで協議会を結成しました。「山の日」では「山」を体でもらう一日にしてほしい』との思いを述べられました。



緑化推進「緑豊かな郷土づくりをめざして」

とちぎ環境・みどり推進機構の佐藤崇理事長とマロニエメイツの入江栞さんに、福田富一知事から『平成26年度緑化運動テーマは、「緑が育む地球の生命（いのち） 私が育む 緑の大地」としており、山、里、まちの緑化の一層の推進を図り、やすらぎとうるおいのある緑豊かな郷土になるようにしましょう』という県土緑化のメッセージをいただき、マンサクの苗木が来場者に配布されました。



閉会あいさつ

閉会あいさつとして、ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の谷畑方夫副会長から「ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう」というスローガンの下、第2回ふるさと高原山を愛する集いが開催できたことへの感謝の意と、実行委員会や塩谷町職員がボランティアにて運営してきたことへの労いの言葉が述べられました。



皆様の御協力を賜り、第2回ふるさと高原山を愛する集いが無事に開催できました。冒頭で申し上げたとおり、企画段階にて二転三転したなかで、何よりもボランティアにて参加してくださった実行委員会メンバーと塩谷町役場の君嶋真紀さん、黒田明典さんの御協力なしでは開催することは不可能な状況でした。また、とちぎ音の会とせんろ商会には特段の協力を賜りました。尚仁沢は一とらんの親水公園ではイベントをやったことがなかったため、御来賓並びに出演者、参加者の皆様に御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。来年の8月はいよいよ国民の祝日「山の日」の1年前となります。今回の反省を踏まえ、第3回を開催してまいりたいと思いますので、今後ともどうぞ御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(備考) ふるさと高原山を愛する集い実行委員の当日の役割

○受付

- ・中山信子さん・福田節子さん：氏名等記載、資料等配布、苗木配布 ※来賓にお弁当を渡す
- ・手塚功さん（和気芳道さん欠のため）：来賓を会場に案内（開会后、来賓補助→クイズ大会前にステージに移動）
- ・斎藤カツさん（※代理 小野崎さん）：はーとらんどでの来賓対応※お弁当配布、コーヒー等飲み物発注



○ステージ班

- ・見形会長：ステージ対応+来賓対応
- ・谷畑副会長：船村先生・うちわさん・えひめさんの調整、当日対応
→小野崎保男さんも同様（ふるさと会サポート）

☆市川・君嶋眞紀さん：全体調整、謝金支払

- ・沼尾：会計（当日欠席）
- ・水野雅章さん：司会、岡本さんとの調整
- ・斎藤民枝さん：司会補佐
- ・漆原敬さん・手塚一信さん・（和気仲男さん）・青木修司さん：開会式前後のイス設置・撤去、クイズ大会補助
- ・手塚功さん：クイズ大会の責任者、ステージ対応、ポスター・パンフ作成
- ・和気達郎、和気洋誠さん：閉山祭、ステージ対応
- ・宇賀神一雄さん：写真

○駐車場班

- ・倭文廣さん：来賓の車を誘導【TCCにて確保】他6名駐車場係
- ・黒田明典さん：はーとらんど駐車場総括
→ボランティア：倭文さんの動員（駐車場、会場案内等）
- ・成川隆顕さんの送迎（宇都宮駅 10:09 分着⇔会場 西川君に打診）



(この報告については雑誌しもつけの心にて連載予定です)

(写真は宇賀神一雄さん（一部市川貴大）撮影)

(成川隆顕さんの写真はなかったものですから、第1回目の写真を使用しました)